聖　天　堂

2008 年建立（成田山開基 1070 年祭記念事業として建立）

人法繁昌のあめに勧請された成田山の教仏「大聖歓喜天」を祀り、古来より毎月初めの七日間こちらの僧侶によって天尊浴油が修行されている。
聖天堂入り口左右に大根の石碑がたくさん置かれています。
歓喜天は部仏教の守護神である天部の一つ。
象頭人身の単身像と立像で抱擁している象頭人身の双身像の 2 つの姿の形像が多いが、稀に人頭人身の形像も見られ、多くは秘仏として扱われており一般の前に披露される事は少ない。
供物は、酒と大根が供えられる。
象頭の神さまと言えば、ヒンドゥーの神ガネーシャを思い浮かべる方が多いと思いますが、このガネーシャをルーツにもった、大変ユニークな存在の秘仏が、日本に受け継がれています。
この秘仏の名は歓喜聖天といい単に歓喜天、また聖天（せいてん、しょうてん、しょうでん）と呼ばれることも多い。その造形にあります。聖天さまは、双身、つまり二体でひとつの仏とされており、そのふたりが抱擁する姿として形取られています。しかも頭部は象です。

成田山の大根絵馬

大根の絵馬がたくさんあり、これは成田山の聖天堂の前に置いてあり、聖天さまと呼ばれていて、歓喜天を祀っている。歓喜天は女性が好きで、女性の象徴である二股大根を供えるのが慣わしか？

歓喜天の由来

歓喜天は、ふたりでひとつの神様ですが、本当の神仏は一方、牙の折れた象頭の女神の方です。こちらは十一面観音の化身とされています。もう一方は神ではなく毘那夜迦王、むしろ魔物というべき存在でした。毘那夜迦王が疫病をはやらせ人々を苦しめているのをみて心を痛めた十一面観音が毘那夜迦王の前に現れた際、その毘那夜迦王と同じ姿に化けました。いっぺんでその女神を好きになってしまった毘那夜迦王。このふたつの生き物が抱擁する姿が、この仏法守護神たる歓喜天です。

この時十一面観音は、仏法の信仰と引き換えに、毘那夜迦王の欲望を鎮めましょう、と申し出たそうです。その申し出を受け入れた毘那夜迦王が十一面観音との抱擁の中で自らの欲望を堪能し、また仏法のすばらしさに感じ入る様子から、この仏像を歓喜天と称するようになったようです。

「欲望を鎮める」という表現には、はっきりいってかなり性的なニュアンスが含まれています。それを神聖なる仏の姿になぞらえるうえで、せいいっぱいソフィスティケイトしたのがこの「抱擁像」という造形だと思われます。

この歓喜天は、象の頭の魔物と同じ姿に変わり、その魔物の欲望をかなえてくれようというのですから、これほど親しみを感じさせる神仏は、他にいません。

歓喜天のご利益・信仰の仕方

歓喜天は、霊験あらたかで、一心に祈れば必ず何らかの形で、奇跡的な救いの手が差し伸べられる、と言われています。ただ同時に、ひどく畏れ多い存在でもあり、いいかげんに信仰すると、バチが当たる、とも言われています。

多くの方は奉納寺院に通う形で歓喜天を信仰されているようですが、中には自分で聖天像を作り、供養している人もいるようです。『使呪法経』という書物にも「この像を作る功徳はお金には代えられない」と書かれています。

ただ、その供養自体が毎日行わなければならない、大変難しい儀式を必要とするため、それが続かなくなって、お寺に奉納してしまう人も多いです。実際、歓喜天を奉納しているお寺に行くと、たいていそういった厨子が多数安置されているのを見ることができます。信仰の対象として自分で聖天像を作るのは、安易には勧められないみたいです。